



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

学 報

2008.12.10 Vol.118

三蔵五訓

真理を探究し、道理を实践する。
豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。
生命を尊重し、自然を畏敬する。
個性を伸展し、紐帯性を培う。
未来を志向し、可能性に挑む。



特集

福山大学 教育改革始まる

—21世紀型人材育成を目指して—

特集 福山大学教育改革始まる	1
福山大学社会連携研究推進センター開設	3
地域連携活動	4
第34回 三蔵祭	7
拡がる教育	10
学内トピックス	11
研究の今	12
キャリア教育	13
学友会短信	13
国際交流瓦版	14
インフォメーション	15



21世紀型人材育成を目指して

福山大学 学長 牟田 泰三

本学では、「備後に根ざした日本有数の総合大学」という目標を掲げ、大学を発展させるための改革を推進しております。この改革の最優先事項として「学士課程教育の改革改善」を取り上げ、福山大学改革推進委員会教育改革部会において検討を重ねた結果、

本年9月22日付で改革構想「福山大学教育システム」を打ち出すことが出来ました。この構想は、平成20年3月25日の中央教育審議会答申を踏まえた上で、福山大学独自の教育改革案をまとめたもので、福山大学の特色ある学士課程教育を構築するいしづえとな

るものです。今後は、この構想にしたがって着実に教育改革の具体化を各学部・学科で進めていくこととなります。

なお、本構想は、大学ホームページ上でも公開し、多くの皆様にご覧頂けるようにする予定です。

福山大学教育システム

福山大学改革推進委員会
教育改革部会

はじめに

今年は、アメリカの経済破綻によるグローバル経済が急速に悪化、同時にアメリカに初の黒人大統領が誕生するなど、世界の情勢は大きく展開しました。

福山大学新教育システムは、変革の時代、21世紀を生き抜く人材を育てるための、教育システムです。それは、また全人教育を目指す建学の理念を浮かび上がらせることにもなりました。

その教育システムは、1学習目標 2 学習方法 3成績評価の三つの項目において示されます。(図. I)

1, 学習目標

この教育システムにおいては、教育目標を明確に定義し、またその目標を学生が身につける力という観点から「学習目標」とよんでいます。大学生が4年間で身につけるべき能力は、総称して「学士力」とされます。新教育システムにおいては、まずこの力を次のように定義します。

(1)知識について

変革の時代に即した知識力とは、知識の体系性を重視するよりは、変化する現象のどの局面にも通用する知識のエッセンスを絞り込み、これを徹底して身に付けることです。

知識のエッセンスとは、知識の実践的な活用の際に必須の知識ということです。つまり、社会における実際の知識活用の面から、身につけるべき知識の範囲を絞り込む必要があります。

(2)知識の応用力について

学士課程教育においては、知識のエッセンスを獲得した上、その知識の活用(創造的活用・課題探究力・学習力)の育成を最終目標とします。そのためには、社会をより良くしようとする意欲、現実を変えていく自由な発想力、手強い現実に取り組むねばり強さ、組織を動かす説得力、人間関係を作る力、これらの総合的な力、すなわち人間力が養われる必要があります。

ます。

これらの力を、「学習成果」として、具体的に示すと、つぎのようになります。

☆知識・理解

人文社会自然科学など広い範囲での基礎的知識・理解^(注1)

専門分野における基礎的知識・理解^(注1)

☆汎用的技能

読み・書き・話す能力

数量的な情報処理の能力

ITを使用した情報処理と情報リテラシーの活用能力

論理的思考力・応用力・総合力・評価力

☆態度・志向性

自己管理能力

集団の中でのリーダーシップ能力

社会参加のための能力

生涯学習力

倫理的・人道的判断力

(注1)「基礎的知識」の範囲は、各学部・学科で専門の実情に応じて設定する。

2, 学習方法

1の学習目標に到達するための教育方法を、提起します。

☆新たなシステムの導入

従来から行われてきた知識・技能の獲得を目指した教育に加えて、態度・志向性の獲得を目指した教育を取り入れます。

(1)講義以外の授業形態

学習者が能動的に学ぶことが出来るアクティブ・ラーニング(AL)、学生参加型授業(双方向的な授業、討議など)、スモール・グループ・ディスカッション(SGD)、問題探究・解決型授業(PBL: Problem Based Learning)、社会奉仕体験活動、教室での学習と地域社会における実践的活動を結びつけて学習するサービス・ラーニング(SL)、フィール

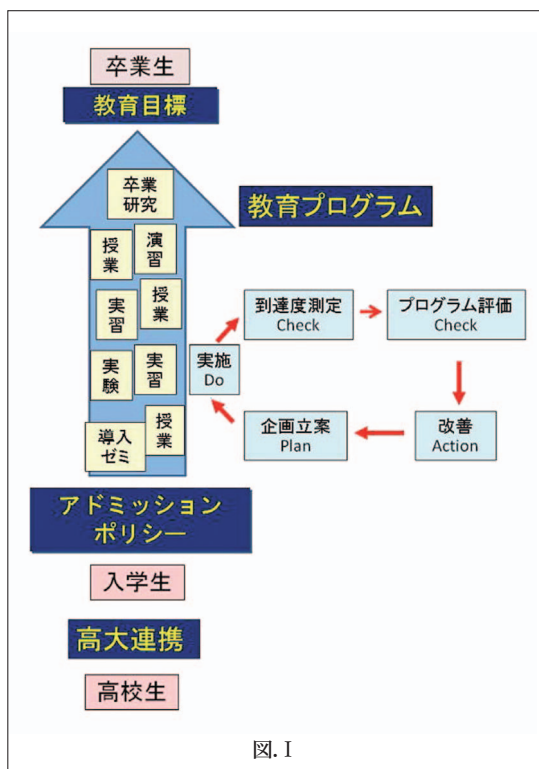


図. I

ドワーク、学生が在学中に就業体験を積み学習の一助とするインターンシップ、海外体験学習、海外留学等々を取り入れます。新たな授業形態はここで述べたような新たな授業形態にふさわしい教室を用意することが必要であり、教育プログラムの開発と同時に、このようなハードウェア面での改善も平行して行っています。

(2) 専門教育へと連動させるシステムの構築

共通教育と専門教育をなめらかに自然とつなげるために、共通教育担当者と専門教育担当者との間で、建設的な検討会を常時もっています。

(3) 学生の事前学習の制度化

学生に事前学習を習慣づけるためには、強制によるのではなく、学生の学習意欲を引き出し、学生が自ら事前の調査研究を行い、授業に前向きに参加するような体制を工夫する必要があります。そのためには、カリキュラムの見直し、シラバスの改良、ティーチングアシスタント(TA)の強化などを図ります。

(4) 補習授業(リメディアル教育)

入学生の多様化はますます進んでおり、学科で要求される予備知識を必ずしも備えていない学生や、仮に高等学校段階で必要な授業をとっていても、それを十分に大学教育の中で生かせな

い学生も多いです。このような学生のために補習授業を制度化していきます。

これらの教育を、4年間でどのように進展させていくかを図式化したものが図Ⅱです。

1年次は、「大学生としての自立」を目指します。読む力、書く力、話す力などのスキルを身につけます。それによって、高校までの受動的な学びの姿勢を、主体的な学びに切り替え、幅広い知識と教養を身につけていきます。

2年次は、1年次で身につけたスキルを活用し、他者との対話を通して、専門分野における基礎的な知識を主体的に身につけます。

3年次は、1, 2年次で身につけた知識と応用力を基にして、社会的な行事やプロジェクト研究に参加し、社会貢献を目指します。

4年次は、1, 2, 3年次で身につけた知識と応用力を駆使して、自ら掴み取った問題意識に基づき、大学本来の活動である新しい知の創造と発信へ、各自が取り組んでいきます。それは、卒業論文、卒業制作として公表されます。

この基本型は大学全体の一般論です。すから、この基本型を土台にしながら、各学部・学科は、それぞれの分野に固有の事情も考慮しつつ、教育プログラムの具体型を作成します。(注2)

(注2) この教育改革構想においては、学士課程教育全般に対する改革案を提示している。学士課程教育の中でも、共通教育(一般教育)の部分は、より具体的な検討を必要とするので、共通教育P.T(Project Team)において、別途構想を策定中である。

3. 成績評価

学生がこれらの教育によってどのような力を身につけたかを適切に評価することは、学習への意欲と進展の上で重要です。学生の学習成果を見るための成績評価は、従来から、優、良、可、不可などの基準を用いて実施されてきています。新しい教育システムにあっては、

- (1) 評価方法
- (2) 評価の時期
- (3) フィードバックの方法
- (4) 卒業時の評価

の四点について提起します。

(1) 評価方法

知識・技能・態度に応じた学習成果の評価方法を整備することが必要です。知識・技能・態度については、客観的な計測が可能な場合と、標準的な基準による主観的な評価を複眼的に行う必要がある場合とに分かれます。特に実践的な授業に関しては、全学共通の基準を設定し、評価者を多面的に設定して客観性をより高める工夫を行います。評価シートの作成、評価者の設定、評価時期の設定、成績評価の表現方法などを決めなければなりません。

(2) 評価の時期

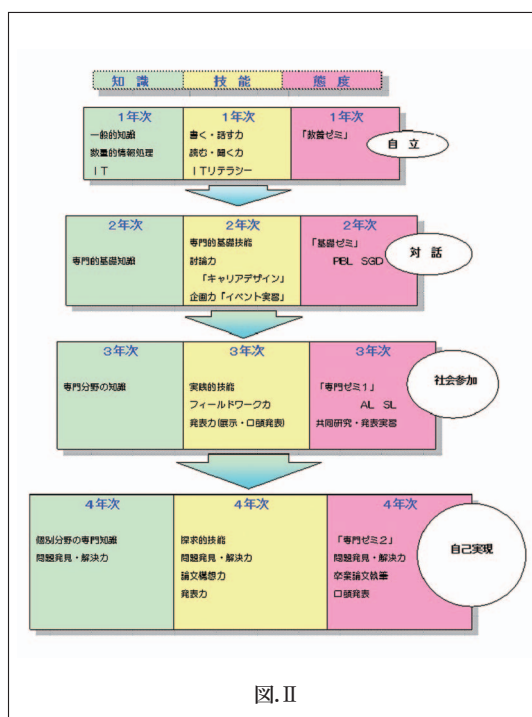
前期・後期、学年終了時、あるいは卒業時の総合的な成績評価方法を明確にすることが重要です。各授業毎に出された成績を総合した上で、どのように評価するか、その方法と表現の様式を提示することが必要です。例えば、小中高の「通知票」のような評価シートの作成(ポートフォリオ)などが考えられます。これにそれぞれの科目が学習目標ごとに整理されていれば(例えば、知識力はあるが、活用力に欠ける、といった)、成績の分析が可能になります。また、学生の総合的な学習成果を知るための指標として、Grade Point Average (GPA)のような指数を取り入れることも検討すべきでしょう。

(3) フィードバックの方法

成績評価結果が新たな活動へ展開することを促進するような方策をこのシステムに組み込む必要があります。学生の成績評価を学生自身にフィードバックし、学生の勉学上の改善を促す方策を工夫します。また、前期・後期、学年終了時の総合的な評価についても同じ事が指摘できます。

(4) 卒業時の評価

卒業時の成績評価については、特別な大学全体の基準を設定する必要があるかもしれません。この観点から、GPAの導入について前向きな検討を行います。建学の精神を考慮した基準を考えることも可能でしょう。



福山大学社会連携研究推進センター開設

地方自治体、学校、各種機関・団体、地域産業等の連携により、地域の活性化に資する実用性の高い萌芽的研究の推進を目的とした福山大学社会連携研究推進センターが、平成20年9月に竣工し、平成20年11月8日（土）に開設記念式典を行いました。



福山大学社会連携研究推進センター（宮地 茂 記念館）

●社会連携研究推進事業（文部科学省採択 H19～現在）

「健全なところとからだに支えられたまちづくりプロジェクト」

社会連携研究推進事業運営委員会（委員長 松田 文子）

健康なからだやこころづくり

■プロジェクト1 「からだづくり」

地域住民の健康に関する意識向上、及び地域医療従事者の資質向上のための実践的研究

■プロジェクト3 「こころづくり」

地域の心の健康作りに関する実践的研究

コミュニケーション力の向上

■プロジェクト7 「メディアコミュニケーション」

地域（学校、家庭）におけるメディアコミュニケーション能力向上を目指した実践的研究

地域の文化や産業について正しい知識と技術に支えられた誇りと自信、関心意欲づくり

■プロジェクト2 「産官学連携」

化学・生物総合管理学の社会連携教育研究

■プロジェクト4 「国際文化交流」

日中文化交流、経済交流のための人材育成と交流推進

■プロジェクト5 「地域の文化再発見」

備後地域の歴史・文化に関する実践的研究

■プロジェクト8 「理科離れ対策」

初等中等教育におけるもの作りの工業技術者の育成教育に関する研究

●社会連携・協力

地域住民

地方自治体

小・中・高・大学等

各種機関・団体

地域産業

福山大学

福山平成大学

産官学交流の拠点

工学部と産学ネットワーク交流会、福山バイオビジネス交流会、備後経営リサーチセンター、福山大学－中国新聞包括的連携協力、福山大学－広島交響楽団包括的連携協力、国際交流（EUセンター（欧）、UCR（米）、対外経済貿易大学（中）等）、孔子学院等

高・大連携

福山大学と高等学校等との連携協力

生涯教育・リカレント教育推進プログラム

社会人及び福山大学・福山平成大学卒業生の生涯学習のニーズに応える教育プログラムの開発と実践

各種相談室

こころの健康相談室、保健・栄養相談室、お薬相談室、介護相談室、子育て支援・相談、福山大学・福山平成大学同窓会室等

その他社会連携研究の展開

- 構造・材料開発研究センター（文部科学省学術研究高度化事業 H11年度～現在）：構造物の耐震性能向上に関する基礎的研究
- グリーンサイエンス研究センター（文部科学省学術研究高度化事業 H16年度～現在）：環境・健康の質の向上を目指すグリーンサイエンスの展開
- 工学部（文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業 H20年度～現在）：地域に根ざした研究：地域防災の教育研究とその地域への普及
- 内海生物資源研究所（文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業 H20年度～現在）：大学の特色を活かした研究：瀬戸内海の生物多様性保全および利用に関する実験生理・生態学的研究

人間科学研究科大学院生 県知事表彰を受ける

平成20年11月2日(日)、青少年育成県民運動推進大会において、大学院人間科学研究科心理臨床学専攻修士2年生の濱本有希さんが、広島県知事表彰を受けました。濱本さんは、大学3年次から平ゼミに所属して犯罪心理学の研究を進める傍ら、福山東警察署少年補導補助員、広島県覚せい剤等薬物乱用防止指導員として活動してきました。また、「地域安全マップ」では、50回以上も小学校へ出向いて指導するとともに、広島県、福山市、広島県警察本部主催の「地域安全マップセミナー」で

は講師を務め、後進の育成にも当たってきました。その他、保護観察中の少年との社会参加活動、非行少年への学習支援、ひきこもり少年等への自立支援、県立福山少年自然の家でのプレリーダーなど、実に多くの活動に携わってきました。今後、県知事表彰を励みとして、さらに心理学を活かした活動を続け、心理学科の1期生として、後輩の目標となるような功績を積まれることを期待しています。

心理学科 教授 平 伸二



藤田雄山県知事から表彰を受ける濱本さん

びんご産業市場 2008

「びんご創造力・福山大学」として出展

広島県東部の地域振興のために、福山商工会議所、(学)福山大学、(財)備後地域地場産業振興センターの三団体が主催する「びんご産業市場」が広島県立ふくやま産業交流館(通称:ピックローズ)にて、11月14,15,16日(金～日)に開催されました。今年は、これに加えて、総務省中国総合通信局などが主催する「U-Japanフェスタ」が、開催されて、昨年よりも3,000人多い33,000人の入場者があり盛大に行われました。このように、地域と大学が一体になった行事は全国的にもユニークです。オープニングセレモニーでは福山大学の学生による三蔵太鼓の演奏がひと際華やいだ雰囲気を盛り上げていました。

大学関係の出展は、各学部学科と附設の研究センター及び大学発のベンチャー企業など25ブースを出展しました。合わせて姉妹校である福山平成大学から5ブースの出展がありました。両大学の統一テーマは「びんご創造力・福山大学」ですが、その中で、各ブース

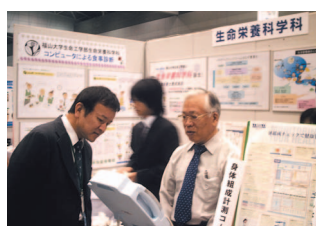
ではブース毎のサブテーマを掲げて出展しました。内容は、年々、改良が加えられて、大学エリアにも多くの見学者が集まりました。見学者は総じて熟年層と幼児連れが殆どで、毎年、物産展エリア、フードフェアエリアに人気が集まる中で、今年度は大学エリアへの客足が増えました。大学エリアでは、幼児でも体験できる、砂絵つくりや、竹とんぼ作り、プラ板つくり、そして、熟年層向きの、薬相談や、生命栄養科学科のように試食品提供やメタボ検診など、福山平成大学では、こども学科の赤ちゃん人形による実習と言ったところに人気が集中しました。なお、大きく掲げた大学全体が鮮明に写った航空写真を見た来場者も、福山大学

が大きくなった実感を抱かれて、感心しきりでした。また、できたばかりの駅前の記念館に関心が高く、特に、今後の市民向け公開講座のスケジュールについての質問が多々ありました。期待は大きいことが伺えました。

社会連携センター 産官学連携部門長
情報工学科 教授 河野 俊彦



三蔵太鼓の演奏



尾道市環境学習会

ー自然や生物にじかに触れ合うー

海洋生物科学科では、広島県の環境学習モデルタウンに指定されている尾道市に協力して、地域の環境学習の推進に取り組んでいます。8月25日には尾道市の小学生約50名と父兄が参加して本学因島キャンパスで環境学習会が開催されました。この会では尾道市環境政策課職員の方と本学科教員が中心となり、しまなみの海辺というロケーションを活用して、自然や生物にじかに触れながら海の環境を学べるような企画を実施しました。海辺の生き物観察会では、近くの干潟に降りてどんな生き物がいるかをにぎやかに探しました。最初はうまく探せなかった子供たちも、砂を掘ることや石

をひっくり返すなどのコツをつかみ、そのたびに現れるたくさんのカニやエビ、小魚、貝などに大喜びでした。次に、みつけた種類ごとにカメノテは14点、ヒザラガイは7点などと点数をつけて海がきれいかどうかを判定しました。結果は「きれいな海」でした。観察会の後はゴミ拾いをし、たくさんの生き物たちがすむ海を汚してはいけないと呼びかけました。このほか、アサリが濁った海水をきれいにする様子を見ることで生き物が環境の中で果たす役割を考えてもらう実験や、私たちが日常使っている「水」の大切さを学んでもらう授業がありました。最後に行った拾った貝殻を使っ



にぎやかに行われた海の生き物観察会

たくさんの個性あふれる作品が誕生しました。こうした取り組みを通して子供たちが自然や生物に親しみ、環境に関心を持って考えてもらうきっかけになればと願っています。

海洋生物科学科 講師 山岸 幸正

ホスピタリティを育む交流学習 ー医療人としての態度・倫理観を学ぶー

薬学部6年制のコア・カリキュラムにおいては、ヒューマニズムについて学ぶことが謳われています。医療人としての態度、倫理観、コミュニケーション能力は机上の理論で身につくというものではなく、体験を積み重ねることによって身に備わってきます。そこで、1年次の「早期体験学習」を土台に2年次で「コミュニケーション交流学習」をして、「気づきの体験学習」を展開しています。

保育園(幼児)か高齢者のデイケア施設に週1回(8週間)訪問し、毎回同じ人とペアを組んで1対1の交流を図っています。

最初は互いに自己紹介をすませる



と会話が途切れてしまい、沈黙が続いて気まずさを感じ、緊張のため何か話題を探そうとするが思いつかず、交流の継続に不安を抱いて初日を終了していることが多いようです。しかし、次からはパートナーの方の興味がど

こにあるかを考えたり、声の大きさや目線の高さに気をつけたりするなど、自分中心ではなく相手を中心に考えて関わり、そしてパートナーの優しさに触れて自分の言動を振り返り、今まで気づけなかった自分に気づかされています。その後はパートナーと学生にとって互いに、次に会える日まで待ち遠しい一週間となり、最後は名残尽きない涙、涙の別れでした。

相手の話を傾聴し、相手の心に寄り添いながら人間関係を築いていき、ホスピタリティーの醸成とコミュニケーション能力の向上が図れたことと思っています。

薬学科 准教授 田中 正孝

福山大学・広島県・ひろしまこども夢財団 共催

男性のための子育て講座 ーみんなで一緒に子育てしようー

現在、核家族化や労働強化などにより子育ての不安や育児ストレスが高まっています。その解決策として、とくに男性の子育てへの参加が求められます。男性の子育てを進めるためには、男性が子育ての大切さや子育ての楽しさ・しんどさを理解し、子育てのスキルを身につけることが必要です。そこで、この講座は、小さいお子さんをお持ちのお父さん、子どもが生まれる予定の男性、子育てに関心のある男性を対象に、子育てについて講義と体験学習を通して学んでいただくために企画されました。

なお、本講座は、福山大学社会連携研究推進事業によるプロジェクト3「こころづくり：地域の心の健康づくりに関する実践的研究」の一環として、広島県とひろしまこども夢財団の協力

を得て実施されます。内容は、体験学習や「みんなでワイワイ」の本音トークなど盛りだくさんです。是非この機会に、現在子育て奮闘中のパパそして未来のパパ(大学生も歓迎)も「男の子育て」を考えてみませんか? たくさんのご参加をお待ちしております。

第1部: パネルディスカッション

- ◆育児休暇を取得したパパの子育て体験談(広島市在住 松本房俊さん)
- ◆子育てを仕事にすること(千田西保育所保育士 高橋史行さん)
- ◆母性と父性(福山平成大学看護学科 助教 松本智津)
- ※コーディネーター: 福山大学 心理学科教授 青野 篤子

第2部: グループワーク

- ◆男性の子育てについて本音でトーク

第3部: 体験学習

- ◆妊娠体験、赤ちゃん模型を使った抱っこ・授乳体験
- ◆親子のコミュニケーション「子どもの言い分に耳を傾ける」ロールプレイ

- 日時 12月20日(土)13時~16時
- 場所 福山大学社会連携研究推進センター(福山駅北口すぐ)
- 対象 小学校就学前までのお子さんをお持ちの父親または子育てに関心のある男性(女性も可)
- 定員 先着順50名
- 参加費 無料
- 問合せ先 ひろしまこども夢財団(広島県こども家庭課内)
TEL&FAX(082)-212-1007
心理学科 教授 青野 篤子

サッカー部少年サッカースクール開設

今年度より、サッカー部が主催して松永地区の小学生を対象としたサッカースクールを開催しています。

松永地区の松永、神村、本郷、今津、金江、藤江、柳津の各小学校には少年団としてサッカーチームがあり多勢の子供たちが熱心に取り組んでいます。しかし、多くのチームでは専門的な指導者の不足や、選手の人数が少ないなど種々の問題を抱えていました。

また、サッカー部では、多くの学生が将来指導者になることを目標に、さまざまな知識を授業の中で学んでいますが、指導の実践を経験出来る場がありませんでした。

そこで、松永地区の各サッカーチームと連携をとり地域をあげて小学生年代の育成、普及に取り組む第一歩として、7月から毎週月曜日の夕方サッカースクールにおいてサッカースクールを開設し、サッカー部員が中心となって指導を始めました。

毎回の練習では、チームの垣根をは

らい、学年別にテーマに沿ったトレーニングを行います。現在では部員だけではなく各チームの指導者の方にも積極的に参加していただくことで地域での一貫指導体制ができあがりつつあります。

大学の掲げる地域連携活動としても、学生の成長にとってもこのスクール

の開設は大変有意義なものであると考えています。

将来この松永地区が「サッカーの街」として発展し、多くの子供たちがのびのびとサッカーに取り組める環境をみんなの手で作りと同時に、このサッカースクールから未来のJリーガーが巣立つことをめざして今後も指導を継続していきたいと思っています。

経済学科 准教授 吉田 卓史



東村小学校での陸上競技指導



走り高跳びの指導

昨年、今年と東村小学校の5、6年生を対象に陸上競技部の部員が指導を行う機会を得ました。今年は、経済学部4年の東克幸君と福島圭一君にお願いし、11月1日に竹ヶ端陸上競技場で行われた小学校の記録会に向け、計3回、リレー、ハードル、走り高跳び、長距離走などを子供たちに指導しました。学生も、初めは子供たちへの接し方に戸惑っていましたが、最終回にはかなり

積極的に子供たちに話しかけ、子供たちも打ち解けた様子でした。子供たちの呑み込みの早さ、そして、素直に耳を傾ける姿勢を見て、学生も非常に勉強になったようでした。

このような地域とのつながりを実感できる機会を得ることができ、しかも、そこで多くのことを学ぶことができたことは学生にとっても大きな財産となったことと思います。今後もこのような機会があれば積極的に参加していきたいと考えています。

税務会計学科 准教授 鶴崎 健一

東村小学校とのマップを通じた交流

東村小学校は、福山大学に最も近い、全校児童数45名の小学校です。小学生に安全な場所と危険な場所を体験学習で学んでもらう、「地域安全マップ」作製も今年で4年目になります。一昨年から、小学校6年生が、事前に大学を訪れてゼミで指導法を学び、大学生と一緒に後輩たちを指導しています。毎年、東村小学校の6年生は、大学に来ることを楽しみにしています。それはゼミの講習を受けて指導者認定証をもらえるだけでなく、心理学科の先生の講義を体験したり、図書館見学や学食体験ができるからです。中でも学食体験は最大の楽しみようで、その様子は翌日には全校に広まります。

児童に危険回避能力を身につけてもらう、防犯から始まった「地域安全マップ」指導ですが、今では東村小学校と福山大学の交流の架け橋となってい

ます。陸上部による高学年への陸上競技指導、低学年への三蔵太鼓指導など、距離的にも心理的にも近い両校です。

心理学科 教授 平 伸二



毎年のお楽しみ、学食体験！

第34回 三蔵祭

第34回 三蔵祭を終えて



今年で34回目の三蔵祭では、『ST AND UP～夢をつかむため～』というテーマを掲げ、三蔵祭運営委員会一同は最高の三蔵祭にしようと全力を尽くしました。

各学部・学科による展示、管弦楽団と吹奏楽部による恒例の『三蔵音楽祭』、和太鼓『三蔵太鼓』の演奏、26のサークルや研究室による模擬店、各サークルによるイベントなど多くの人のご協力により、例年にも増して充実した三蔵祭になったと思います。

特別企画では、『キマグレン』『かりゆし58』によるライブを行い、更に盛り上げることができました。

今年の三蔵祭は約15,000人のお客様に來場して頂きました。お客様の満足された様子を見ることができ、三蔵

祭運営委員会一同も最高の三蔵祭になったことを大変嬉しく思っています。三蔵祭当日まであきらめず頑張ってきて本当に良かったと思います。学内の協力者やご來場頂いたお客様に心よりお礼申し上げます。

夢をつかむために立ち上がり、一歩進む勇気を持っていただけたでしょうか。今後も良かったと思って頂けるよう、三蔵祭運営委員会一同さらに努力していこうと思います。本当にありがとうございました。

第34回三蔵祭運営委員会 委員長
人間文化学部 人間文化学科 3年
峠之内 慎也
第34回三蔵祭運営委員会 副委員長
人間文化学部 人間文化学科 3年
安原 宏泰

経済学部 クイズにチャレンジ!

Q. 3年後の2011年には消費税率を引き上げようとする動きも見られますが、ではこの消費税、日本で施行されたのは何年のことだったのでしょうか?

- A 1986年 B 1987年
C 1988年 D 1989年

A. 正解はDの「1989年」です。将来にわたって安定的な税制を確立するために、当時の竹下内閣によって1988年に消費税法が成立・公布され、所得税の減税

とともに1989年4月1日に施行されました。今年の1年次生は、この年(平成元年)に産まれた方も多いのではないでしょうか。ちなみに、当時の税率は3%でした。

というように、昨今のクイズブームに乗り、経済を身近に感じてもらおうと、経済学部でもこのようなクイズを出題し、來場者の方々に楽しんでいただきました。展示場の飾り付けにと、学生た

ちが製作したペーパークラフトも好評でした。

経済学科 講師 石丸 敬二



12問中最多正答数が4問の難しさ!

人間文化学部 In Action 2008 学科の特徴を発揮、大いに盛り上がる

人間文化学部では、3つの学科が学生の研究発表を「人間文化学部 In Action 2008」の旗のもとに企画実施しました。

人間文化学科では、今年から始めた高校生対象の『『友だちにすすめたい本』コンクール』表彰式を実施(詳細はP9)。また、「宮沢賢治・童謡と切り絵の競演」に切絵作家吉田路子さんを迎え、学生たちとともに岩手の方言で宮沢賢治の童話を朗読。地域の巡検やヨーロッパ研修など学外研修の写真パネルを使ったクイズを行い大勢の人が参観していました。

心理学科では、錯視の実験として有名な「エイムズの部屋」の実物大模型を展示。これは心理学科と工学部の先生とのコラボレーション。学生たちの日頃の学習・研究成果のポスターセッションを行い、多くのギャラリーを集めていました。

メディア情報文化学科は、「第3回高校生CMコンテスト」の審査結果発表・表彰式を行いました(詳細はP9)。また、尾道の映画コンクールに入賞した「うみねこ」の試写や、シナリオ、登場したネコの展示、制作スタッフとの討論会。学生の研究成果のパネル展示、來場者の質問に対して、熱く研究成果を説明していました。

メディア情報文化学科
教授 三宅 正太郎



心理学科 不思議の部屋「エイムズの部屋」



人間文化学科 宮沢賢治童話の朗読



メディア情報文化学科 「うみ(ねこ)がお出迎え

工学部 機械を楽しむ

機械システム工学科では、研究室の紹介・公開とともに機械システムコースや自動車システムコースの紹介を行いました。研究室の紹介・公開は、「PCで変形をシミュレーション」、「機素潤滑研究室の公開」というテーマで行いました。また、機械システム工学科の企画として、「宇宙航空機実験室の公開」、「バイオメカニクス研究機器の展示」、「ダッチ・プロジェクトの紹介」などを実施しました。機械システムコース・自動車システムコースの紹介としては、「CAD/CAM/CAE教育システムのパネル展示」、「自動車実習工場の公開」などを実施しました。また、機械シス



ダッチの展示

テム工学科同窓会(友輝会)の協力によりクイズラリーも開催しました。クイズラリーにより多くの来訪者の方に大

学祭を楽しんで頂くことができました。

「ダッチ・プロジェクトの紹介」では9月に実施した「ダッチ松山モノづくりツアー」の報告を行いました。土曜日にはダッチ試乗会も開催しました。試乗会に参加した来訪者の方々から、「学生が実際に80年以上も前の自動車を修理し、しまなみ海道を走行したことには感動しました。」など、多くの来訪者の方々からいろいろな感想を頂き大変有意義な大学祭となりました。

機械システム工学科

講師 小林 正明

生命工学部 大学の活動を身近に体験

生命工学部では、3学科がそれぞれ工夫を凝らして各学科の特長を来客にわかりやすく紹介し、かつ楽しんでもらえるような企画・展示を行いました。生物工学科では『エコロジー地球に優しいlife science-』をテーマに、魚や植物や微生物、自分のからだの細胞といった身の周りの生命について、実際に触れたり成分のにおいを嗅いだり味わったり観察するなどの体験を通じて興味が持てるような展示を行いました。また参加型の「科学実験コーナー」も設け、科学の面白さを実感できるようにしました。今年度から名称が変わっ

た生命栄養科学科ではテーマを『美味しく健康に生命栄養科学』とし、これまで以上に趣向を凝らした展示で「食と健康」についてわかりやすく紹介しました。アイスクリームなどの「試食コーナー」、測定機器を使った「メタボ検診コーナー」は長い行列ができるほど好評でした。海洋生物科学科では『海の生きもののウォッチング!!』というテーマで、たくさんの水槽を用意して魚や甲殻類などのさまざまな海の生きものを展示し、学芸員資格を持つ学生や資格取得を目指す学生が中心となって学科の研究とともにわかりやすく紹介して、さ



ながら「ミニ水族館」のようでした。訪れた大勢の来客に生命工学部の活動を自分の目で見たり体験してもらうことができ、生命工学部を身近に感じてもらえたことと思います。

生物工学科 講師 広岡 和丈

薬学部 危険なものの摂取を避けて健康づくり

薬学部の催しは毎年楽しみに来場される方がたと聞きます。学生薬局の「ハンドクリームや入浴剤の調製」、運営委員が行う“体力改善”等ですが、恒例の

催しに加え、今年は“百日咳”をテーマにとりあげました。

健康管理が大切なことは誰でも知っていますが、“いざ実践”となれば難し

いものです。それととりあげたのが薬理班と衛生班の二つのテーマでした。“禁煙”と“メタボリックシンドローム”です。たばこの害と禁煙については、叫ばれてかなり長い時が経ちますが、顕著な効果がないためか、それとも嫌煙者の叫びなのか、今でも話題にな

ります。もう一つは最近誰しも気になる“メタボ”です。“メタボ”と聞くだけで、下腹に視線が、そして手が脇腹にいつてしまいそうになります。しかし、二つともこれからの社会において重要なことですが、避けたいようなテーマです。いずれも、大学祭という身近なところだからこそ、その重要性を自然に認識して頂いたのではないのでしょうか。

そして、化学班がとりあげた“薬物乱用とその危険性”ですが、物騒なテーマです。昨今のニュースで話題になっていることを思えば、身近なところで、何時でも起こりうる犯罪を防ぐための警鐘として役立ったと思います。薬学部らしい催しでした。

薬学科 教授 西尾 廣昭・藤岡 晴人



キッズサッカーフェスティバル開催

10月18日(土)すばらしい青空のもと、「第5回福山大学キッズサッカーフェスティバル」を開催しました。近隣から100人近くの子供たちが集い、サッカー場周辺は一日中笑顔の満ちあふれた素晴らしい空間になりました。

このイベントは、地域の子供たちに緑の芝生の上で思いっきりサッカーに親しんでもらえるよう三蔵祭に合わせ毎年開催しています。

既にこのフェスティバルも5回目を迎え、学生だけで準備運営ができるなど、サッカー部員達の成長も感じることができました。

昨年に比べ若干参加してくれた子供たちの数が減ったものの、その分ボールに触れる機会が増え、また学生達との交流も例年以上にできたようです。

来年に向けては内容の一新等これまでにないキッズフェスティバルが開催できるよ



う今から準備を進めたいと思っています。
経済学科 准教授 吉田 卓史

第一回「友だちにすすめたい本」コンクール —1193篇の応募がとどく—

人はだれも自分にとって宝物の本を一冊は持ち、それを他の人に伝えたい気持ちを抱いています。人間文化学科では、その思いを発表する作品を高等学校に募集してコンクールを行いました。広島県と岡山県の高

等学校24校から1193篇の応募があり、最優秀賞1篇、優秀賞2篇、佳作賞3篇、学校賞2校、学校別審査員賞各校5篇が選ばれました。

審査は三次審査まで行い、人間文化学科全教員により1193篇の中から30篇のノミネート作品が選ばれ(第一次審査)、その30篇の中から本審査にノミネートする10篇が選ばれ(第二次審査)、その10篇の中から審査員(牟田泰三学長、磯貝英夫ふくやま文学館館長、石田 藤森益弘両客員教授、青木美保教授)により最優秀、優秀、佳作の計6篇が選

ばれました。

表彰式は三蔵祭の二日目である10月19日(日)に01204教室で行われ、受賞対象者が所属する、福山暁の星女子高校、福山誠之館高校、五日市高校、油木高校、広島文教女子高校、尾道高校、矢掛高校、松永高校、銀河学院高校、賀茂北高校、広島皆実高校の生徒と先生が出席し、審査員による密度の高い講評に接して、会場全体に熱い感動が充満しました。

賞の中では学校別審査員賞各校5篇がユニークで、高等学校としては自校の応募作品に順位がつけられてトップ5が決まることになり、その動向に大きな関心が寄せられました。

人間文化学科 教授 久保 卓哉

第3回高校生CMコンテスト —メディア情報文化学科—

メディア情報文化学科では、「高校生CMコンテスト」を開催しました。テーマは「ア



ピールしよう! あなたのまちのエコ」。今年は「映像作品の部」に93作品、「企画コンテの部」に26作品と、前回は大きく上回る応募をいただきました。

審査員に(株)サン・アドから葛西薫氏、藤森益弘客員教授を迎え、「映像作品の部」は妹尾桃子さん他2名(奈良女子大学附属中等教育学校)の「もしも。」が、「企画コンテの部」は中澤春香さん(同)の「NO, Smoke」がそれぞれグランプリとなりました。

表彰式は三蔵祭開催中の10月19日に福山大学で行い、受賞者に賞状やトロフィー、副賞を授与しました。

ウェブサイトでは「映像作品の部」の受賞作品を公開しているので、是非ご覧いただきたいと思います。

<http://www.fuhc.fukuyama.ac.jp/human/media/cm2008/>

メディア情報文化学科 講師 内垣戸 貴之

スピーチコンテスト

10月18日(土)、福山市教育委員会、ふくやま国際交流協会、福山大学留学生教育振興協会の後援を得て、2008年度広島県東部高校生英語スピーチコンテストが開催され、11名の地元高校生が「私の主張」、「夢」、「私の大切なもの」などから選んだテーマで競い合いました。いずれも日ごろの訓練と周到な準備をうかがわせる熱弁であり甲乙つけがたいものでしたが、大賞には広島県立誠

之館高等学校2年生河野冬実さんが選ばれ、副賞としてカリフォルニア大学リバーサイド校(UCR)から1か月間の短期留学奨学金また、留学生教育振興協会からは旅費の一部が授与されました。他に、準大賞1名、優秀賞2名、審査員特別賞2名が選ばれました。

翌19日(日)には三蔵祭スピーチコンテストが、日本語の部(留学生)と英語の部(非英語圏学生)の2部門に分かれて開催され16名の福大生が参加しました。語学力だけで

なく若者らしい新鮮な感覚で聴衆に感銘を与えたスピーチが多い中で、日本語の部では経済学部 阮苑さん、英語の部では薬学部の浦崎朋加さんが最優秀賞に選ばれた他、経済学部の諭増勝君、石月さん(以上日本語)、同じく苗培君、王琦さん、永久泰三君(以上英語)が受賞しました。

国際交流事業運営委員会委員長
国際経済学科 教授 富士 彰夫



福山大学・福山市内中学高等学校六年一貫教育校連携
理科教育支援事業

Science Lab (サイエンスラボ)

中高生の理科離れを食い止めるとともに、欧米に比べて立ち遅れの目立つ科学技術領域への女性の進出を図ることを目的とした理科教育支援事業“Science Lab”が、昨年度から本学の多くの教員の協力のもとに実施されています。今年度は対象校を福山市内の六年一貫教育校に広げ、男子生徒を対象とした社会連携研究推進事業PJ8「理科離れ対策」～中高生の理科教育支援に関する教育手法の開発～と、女子生徒を対象とした「女子中高生の理系進路選択支援事業」～輝け未来



平成20年度 Science Lab 支援事業内容			
● Science Lab Opening Ceremony ● 施設見学 ・グリーンサイエンス研究センターの見学 ・大学図書館の見学と利用			
第1回 6月15日(日)	● 実験型理科学習Ⅰ アンジェラス ス タ ー ロ ー ズ	中学生 ・薬剤師の仕事体験してみよう ・ウインドカーを作ろう ・アサリの浄化能力を調べる	高校生 ・DNA鑑定実習 ・危ない薬 ・DNAの分離にトライ
第2回 8月9日(土)	● 実験型理科学習Ⅱ アンジェラス ス タ ー ロ ー ズ	中学生 ・おいしいチョコレートの作り方 ・血液型の鑑定 ・漢方薬『葛根湯』をつくる	高校生 ・DNA鑑定実習 ・危ない薬 ・DNAの分離にトライ
第3回 11月9日(日)	● 実験型理科学習Ⅲ アンジェラス ス タ ー ロ ー ズ	中学生 ・血液中のぶどう糖の測定 ・海洋動物の形態観察 ・ミルク・クイーンのおいしさに迫る	高校生 ・かぜ薬をつくってみよう! ・酵素を使った食品中の糖分測定 ・パベルの塔はなぜ潰れたか?
第4回 2月14日(土)	● 実験型理科学習Ⅳ アンジェラス ス タ ー ロ ー ズ 公開テーマ	中学生 ・パソコンでパズルを解く! ・はっぱの科学分析 ・コンクリートのふしぎ ・レーザと光の不思議	高校生 ・こころを科学する ・液体窒素・ドライアイスの性質と利用 ・解熱鎮痛剤って何? ・薬とサプリメント
● Science Lab Cafe Meeting ・科学技術分野で働く先輩の話を聞いてみよう!! ・クイズ大会 ● Science Lab Closing Ceremony			

の女性Scientist Enjoy Science Lab!!～が連動し、表に示したスケジュールに従い順調に展開されています。理科離れが問題となっている背景には、実験を通して理科を学習する機会の少ないことが挙げられます。そこで、“Science Lab”においては、理科の楽しさ面白さ、そして神秘に触れることのでき

る実験型理科学習を中心に行っています。第3回までの延べ参加生徒数は360名である(男子144名、女子216名)。第4回は、科学技術分野で活躍している卒業生などによる講演や交流会も計画しています。

理科教育支援事業“Science Lab”
取り纏め責任者 杉原 成美

夏期アメリカ英語研修を終えて

今年も8月にカリフォルニア大学リバーサイド校における英語研修が行われました。参加学生は7名で、最初の1週間くらいは授業の英語が十分に聞き取れないとか、宿題が大変とか、食べ物やホームステイ先の人間関係で少し戸惑いのある人もいましたが、毎週末、楽しいオプションルツアーに参加したり、

クラスメートと仲良くなると、最初の頃の不安がウソのようになくなり、最後の1週間くらいには帰りたなくなる人も多くなりました。帰りの朝、ロサンゼルス空港に向かうバスに乗り込む前に、ホームステイ先の人たちと抱き合って涙する学生の姿が印象に残っています。参加した7人はそれぞれ一回り大



きな人間になったと思います。

生命栄養科学科 教授 井ノ内 直良

中国語研修

8月1日から24日までの3週間、経済学部、人間文化学部、生命工学部、の各学部から12名の学生が北京對外経済貿易大学での夏季集中語学研修に参加しました。丁度滞在中



到北京オリンピックが始まり、急速に発展する中国経済とオリンピックの熱気にあふれる様子を直に見るまたとない体験をすることができました。

授業は月曜から金曜までの午前中4時間、毎日クラスで中国語を基本からみっちり叩き込まれます。授業の進行はかなり早く、予習・復習が欠かせませんが、多くが語学力の進歩を実感したようで、参加学生のうち2名が来年3月から半年間の再留学を決めたほどでした。中国に生活しながら中国語を学ぶことが参加者の学習意欲を刺激しているようで、これも海外留学の大きなメリットです。

また、午後と週末は自由時間なので、市内見物や買い物、他大学からの留学生との交流など北京の滞在を満喫できます。到着当

初は右も左も分からなかった学生たちが、次第に地下鉄やバスを自由に乗り継いで目的地に行けるようになり、行動範囲も広がりました。大学側でもさまざまなツアーを用意しており、万里の長城、紫禁城、北京動物園、首都博物館、天壇公園、など多くの名所へもボランティア学生に案内されて訪れました。

オリンピック開会式当日には会場近くまでバスで行き、群衆に混じって打ち上げ花火を見物しましたが、中国人のみならず世界中から集まった観光客とともに見た夜空に上がる花火は忘れられない思い出になったことでしょう。一人でも多くの福山大学生に在学中に留学経験を持たせたいとの思いを強くしました。

国際経済学科 教授 富士 彰夫

2008年度 UCR日本文化研修

本研修は姉妹校であるカリフォルニア大学リバーサイド校の学生を対象に、日本文化の紹介の場を提供するものです。第3回目となる本年度は、9月7日から17日までの期間で実施されました。カリフォルニアから来日した12名がこれに参加し、日本文化を見聞する機会を得ました。

研修は各学部からの講義と基礎日本語講習、並びに陶芸、華道、茶道、着付け、うどん打ち体験、禅、能舞台見学などのワークショップ、及び香川、広島平和公園、宮島、岡山への



2008年度 UCR日本文化研修
総長、学長への表敬訪問のあとで

小旅行から構成されています。講義は、経済学部高田先生、人間文化学部重迫先生、工学部香川先生、生命工学部藤田先生、薬学部田中により行われました。基礎日本語講習では、人間文化学部三浦先生、胡子先生のご尽力をいただきました。ワークショップでは、陶

芸の藤本先生、華道の垣内先生をはじめ、茶道と着付け並びにうどん打ち体験については、国際ソロプチミスト福山並びに福山松永ライオンズクラブの皆様方にご協力をいただきました。また、これらの研修科目には、本学の学生がランゲージパートナーとして参加しました。

研修生諸君は期間中、福山ならびに尾道地区の家庭に滞在し、日本の生活文化を満喫したところです。ホームステイに関しては、福山大学留学生教育振興協会を中心に多大なるご尽力をいただきました。ご協力をいただきました皆様に御礼を申し上げます。

国際交流事業運営委員会委員長補佐
薬学科 准教授 田中 哲郎

サッカー部天皇杯出場

サッカー部は「2008年度全広島サッカー選手権」において7年ぶり3度目の優勝を飾り、「第88回天皇杯全日本サッカー選手権」に広島県代表として出場しました。

8月24日に広島広域公園第一球技場で行われた全広島サッカー選手権決勝では選手達が素晴らしい戦いぶりをみせ、広島修道大学に3-1と快勝し天皇杯の切符を手に入れました。

これまで2年連続決勝で敗れ大変悔しい思いをしていましたが、それをバネにした今年のチームは4年生を中心に一体感のある戦える集団に変貌しました。4月に行われた大学予選から8月の決勝まで全5試合を圧倒的な攻撃力で勝ち上がり、決勝では100名



の部員の思いを胸に90分間走り続け、積極的にしかけることができるなど大変良いゲームができたと思います。

地元福山で開催された天皇杯本大会では、鹿児島県代表に0-3で敗れました。全国大会の緊張と相手の上手さから今シーズンで

最も悪いゲームをしてしまいました。この試合では理事長、学長をはじめ大変多くの大学関係者、市民の皆様に応援していただいたにも関わらず力を出し切れず申し訳ない気持ちでいっぱいです。部員一同多くの皆様に支えられて活動できることに感謝の気持ちを持つとともに、この悔しさをバネに全国大会での勝利は来年の目標として是非達成していきたいと思います。

最後にこの全広島サッカー選手権にはサッカー部の社会人登録チームである「三蔵FC」も社会人予選を突破し本大会に進出しました。来年度は、決勝の舞台でサッカー部のトップチームと三蔵FCが戦えることを目標に今後もしっかり取り組んでいきたいと思います。

経済学科 准教授 吉田 卓史

全日本大学フットサル選手権で全国2位

サッカー部は「全日本大学フットサル選手権2008」に出場し見事準優勝、全国2位という快挙を成し遂げました。

この大会は8月に大阪において全国各地域の予選を勝ち抜いた精鋭16チームによる大会で4チーム4グループの予選リーグ、そして決勝トーナメントという大会形式で行われました。

福山大学はサッカー部員の中でフットサルチームを立ち上げ、7月の広島県予選、中国地域予選で優勝し全国大会の切符を手に入れました。

2年連続3回目の出場となる全国大会では、予選リーグ2連勝しグループリーグ最終戦同志社大学フットサル部との対戦は引き分

けでも決勝トーナメント進出が決まる試合に残り10秒までリードを許す厳しい展開の中、最後の1プレーで劇的な同点ゴールを挙げ見事グループ1位で準決勝に進出しました。

準決勝では九州代表名桜大学に7-4で快勝。決勝では、フットサル界の強豪チームである神戸大学フットサル部に惜しくも敗れましたが、見事全国2位の快挙を成し遂げることができました。この大会は私たちのようなサッカー部だけではなく普段フットサルを専門に活動しているチームも出場可能で勝手の違うフットサルで勝利することは難しいものでしたが、選手一人一人がサッカーで培った気持ちと一体感でなし得たものだと考えます。



関係者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。来年は全国優勝を目指しさらに努力をしていきたいと思います。

決勝の行われた8月24日は、天皇杯出場を決めた日でもあり、サッカー部にとってこの日は本当に忘れられない一日となりました。

経済学科 准教授 吉田 卓史

第63回国民体育大会 「チャレンジおおいた国体」に出場

【ボート】



国体予選前までは体調不良やケガで、チームとしてのコンディションは良くありませんでした。しかし、社会人の協会に所属する方々と合同で練習をさせていただき、試合に向けての熱意やあきらめない気持ちを学びました。国体の試合結果は予選・敗者復活と負けてしまい、決して良い結果ではありませんでしたが、強豪に全力で挑み、そして試合を楽しめたので、とてもいい経験になりました。来年

はもう一度この舞台に立ち、上を目指していきたいです。 生命工学部 海洋生物科学科 2年 北条 正人

私たちボート部は部員が少ない状況で、なかなか練習への気合や楽しさを実感できなくなっていたところ、地元の漕艇協会の方々と試合形式の練習を誘われて、だんだんと部員が練習の虫のようにになり始めました。それから、協会の方々とほぼ毎日全力を出しきる練習で、足に故障もありましたが、気合と根性で国体に向けて練習してきました。

国体では敗者復活も負けてしまい、順位は付きませんでした。予選ではオリンピックに4回も出場している選手と試合ができ、とてもいい経験となりました。私は選手としては就職活動などで引退ですが、後輩達にもまた国体に出場してもらいたいのので、まずはボートの楽しさを教えていきたいと思っています。

経済学部 経済学科 3年 小林 秀彰

【水泳(高飛込)】

今回、僕は大大分国体の水泳競技飛込の部に出場しました。飛板飛込では15位、高飛込では5位でした。

高校生の頃から出場して今回で4回目の出場でしたが、今回からは成年の部になったので、今までとは違い大人の方達との試合でとても緊張しましたが、リラックスして試合

に臨めました。その結果、自分の思うようなベストダイブができました。今季最後の大会を気持ちよく終わり、オフの練習も初心を忘れずにやっていきたいです。

工学部 建築・建設学科 1年 藤井 誠也

【サッカー】

いつもは福山大学の代表としてゴールを守っていますが、国体では広島県の代表としてゴールを守り、いつもとは違った緊張感の中で試合をすることができました。試合は秋田県代表に負けてしまいましたが、この国体で経験したことは自分にとって、サッカー選手としても人間としてもいろんな意味でプラスになりました。そしてこの経験を今後の人生に生かしていきたいと思っています。

経済学部 経済学科 4年 戸田 進

【ボウリング】



9月29日から10月3日まで大分県大分市OBSボウルで開催された第63回国民体育大会ボウリング競技成年男子の部に兄弟で出場することができました。この大会では個人戦6ゲーム、2人チーム戦6ゲーム、4人チーム戦3ゲームの3競技が行われました。個人戦は私が37位、弟が77位、2人チーム戦は25位、4人チームは20位と、結果は全て予選敗退でしたが、これからの課題を見つけることができ、来年、再来年につながるいい経験になりました。

人間文化学部

人間文化学科 4年 大下 耕平

電動ピエロとテレビジョンの幼少期

—放送文化振興基金を受賞—

先日、久しぶりに尾道を訪れたことがきっかけで、とても珍しい電動ピエロ人形の存在を知った。中国放送の元アナウンサーである山中善和さんが所有しているもので、1936年にドイツで生まれたこの人形を、その当時、山中さんのお父上に取り寄せたのだという。顔を左右に動かし、まばたきもするほか、台座のところが精巧な機械仕掛けの紙芝居になっていて、両手が上下して看板を出し入れする。紙芝居はライトで照らされ、まるで映画のようだ。

1936年のドイツといえば、ヒトラー政権下でベルリン・オリンピックが開催され、機械式のテレビジョンによる実況中継が試みられた年である。紙芝居の部分は当初、ショールなどの洋品を宣伝したモダンな広告だったが、40年には日独伊三国軍事同盟の宣伝に変わったという。山中さんは幼い頃、きつこういふものがテレビジョンなのだろうと思ったらしい。

日本でテレビの定時放送が始まり、街頭テレビが人気を博すのは1953年のことだ。しかし当時でさえ、人の集まるところに受像機を置き、その映像を公開するという発想は、決して目新しいものではなかった。戦前、実用化を目指して開発が進められていた受像機が、

実に多様なやり方で、繰り返し一般に公開されていたからである。30年代なかばまでは、大学野球の試合を博覧会場に実況中継するといったモダンな試みがなされていたが、戦争の足音が近づくにつれ、内閣情報部の講演や国民歌謡(軍歌)が実験放送で流されるなど、国策宣伝の道具として活用されるようになった。国威発揚のための科学的見世物として、台湾や樺太といった植民地にまで動員されたこともある。

そうした経緯は今日ほとんど伝えられておらず、私はこれまで数年をかけて資料を掘り起こしてきた。尾道で出会ったピエロの幼少期は、私が解明してきたテレビジョンの戦争体験と重なり、不思議な感慨を覚えたのだった。

今後の私の課題は、地方の視点からテレビの歴史を編みなおすことだ。放送が始まった当初、全国どこにでも街頭テレビが存在していたわけではなく、誰もが路上で力道山のプロレスに熱狂したわけでもない。地方における受像機の普及の仕方は、体系的にまとまってはいないのである。私は今年、「テレビ受像機の民俗学—備後地方における放送文化の保存と発展に向けて」と題した活動によって、公益信託高橋信三記念放送文化振興基金を受賞した。地

域社会と関わりながら調査を進め、その成果は追って公開していきたい。



1936年 ドイツ生まれの電動ピエロ人形

メディア情報文化学科 講師 飯田 豊

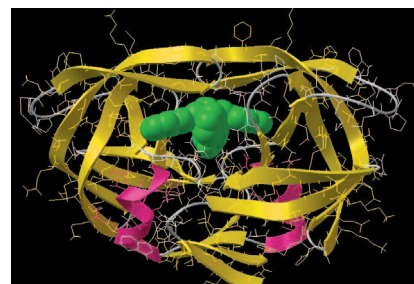
「実験装置はコンピュータ!？」

「コンピュータ」と聞くと何が思い浮かぶだろうか? 恐らくインターネットと答える人が多いのではないだろうか。これはここ数年のコンピュータの高速化と低価格化が関係していると思う。その恩恵を科学において最も受けたのは計算化学である。計算化学とはガラス器具を使わない「実験装置」と思っていたのが良い。高校生の頃はコンピュータは得体の知れない電気を使う箱と思っていた私が計算化学に魅せられた経緯をお話させていただきたい。

初めてコンピュータを所有したのは大学2年生の夏季休業中であつた。その頃は、パーソナルコンピュータと言えばNECのPC98シリーズが有名であったが高価であった。偶然にもエプソンからPC-98シリーズの互換機が発売され、少しは安価に購入することができた。また、量子化学の講義ではヒュッケル法という理論計算を初めて学んだ。この方法が有機化学で学んだ反応を理論的に予測できる事がわかり、ただ単純に「これはスゴイ!」と感

動したことを覚えている。講義ではヒュッケル法の方程式を手計算で解いた。そこで、コンピュータで計算すると楽になるのではないと思い、自分でこのヒュッケル法のプログラムを作ろうと決意した。図書館で量子化学とプログラミングに関する書籍を自分でいろいろ調べた。ここで自分がいかに無知であったかに気付かされた。実はその頃にはヒュッケル法の精度を超える理論計算がすでに発表され、その計算プログラムが存在していたのだ。そのプログラムで簡単な分子の理論計算を行ってみたいところ、非常に楽しかった。数字として出てくる情報が有機化学で学習したことに直結していたこと、さらに、量子化学の教科書に書いてある数式がプログラミングにより具体的に理解できたからである。

大学院はガラス器具の一つも無い研究室に進学した。ここで、コンピュータシミュレーションという新たな「実験装置」に出会った。これを創薬に応用したのがドッキングシミュレーションで



ドッキングシミュレーションの一例

ある。薬の作用は薬物という鍵がタンパク質の鍵穴に一致する事が必要とされる。ドッキングシミュレーションにより、薬の候補を実際に合成することなく見つけることが可能なので、合理的な創薬が進展すると期待されている。

今思えばコンピュータの購入と量子化学の講義とが偶然にも重なり、歯車のように噛み合ったのだ。その過程で体験した「感動」と「楽しさ」が今の自分の出発点である。学ぶことで得られる感動をぜひ学生たちに伝えたいと思っている。 薬学科 講師 秦 季之

キャリア教育

第30回福山大学薬学部 卒後研修会

第30回福山大学薬学部卒後研修会が11月15日(土)午後2時、31号館で開催されました。今回は、福山西消防署の救急救命士4名を講師に招き“救急救命”をテーマに開催しました。参加者は、卒業生を含む学外受講生が24名、福山大学関係者が13名の計37名でした。

本学薬学部では、6年前から、薬学部西尾教授により、自動体外式除細動器(AED)の使用法と応急手当法の講習を1年次生に受講させています。しかし、参加者の中には、今日公共の場所には必ずといって良いほどAEDが設置してあるにもかかわらず使用法も知らなければ、ケースの中を開けて見たことも

ない方もおられたようです。今回のテーマ設定は、突然の心停止からの救命に必要なAEDの講習を是非受けたいという前回研修会のアンケート結果がきっかけでした。

当日は応急手当の講義が行われ、続いてAEDの実技研修が行われました。救急救命士諸氏の手際よい手ほどきで全員“これなら使える”というまで自信がついたようです。実技研修終了後、学外参加者の講師への質疑応答は医療現場を熟知してか、活発でした。

今回の研修が、薬の専門家は言うまでもなく、一次救急に役立つ技能を有し社会に貢献できる医療薬剤師の養成に役立つことを願っています。

薬学科 教授 藤岡 晴人



公務員講座開講中～本気のチャレンジャー～

公務員になるためには、とてつもなく高いハードルを越えなければなりません。世の中では『団塊の世代』と謳われてきた人達の退職期を迎え、公務員への採用も増えてはいますが、厳しいです。

講座は基礎講座、本講座、直前対策講座からなります。6月から始まった講座も現在は本講座に入り、個別ガイダンスにより、公務員としての心構えを勉強したり、特別クラスにより、実力をつけています。良い結果を期待します。

学務部 教務課

資格取得をめざして ―自分磨きのためにも―

取得可能な資格の一例

宅地建物取引主任試験対策講座、自動車整備士試験対策講座、バイオ技術認定試験対策講座、潜水士免許試験対策講座等。

また、資格を取得した場合は関連科目の単位を認定する制度もあります。

資格取得総合センターの活動

資格等取得ガイダンス企画、立案、情報収集。

教務課窓口を通して行っている検定としては、英語検定、簿記検定等があります。

大学を受験会場としている検定

漢字検定、中国語検定、TOEIC等。

教務課で受付をしているものは年度始めには検定日、受付期間等を掲示をしています。

学務部 教務課

学友会 短信

【陸上競技部】

- 9月11日 天皇賜杯第77回日本学生陸上競技対校選手権大会 出場 3000mSC 正木 彬(工学研究科2年)
- 9月23日 第40回全日本大学駅伝対校選手権大会 中国四国地区最終選考会 第3位
- 10月12日 第20回出雲全日本大学選抜駅伝大会出場 中国四国学生連盟選抜 正木 彬(工学研究科2年)
- 東 克幸(経済4年)伊藤 健太(経済3年)
- 10月17日～19日 第31回中国四国学生陸上競技選手権大会 3000mSC 優勝 正木 彬(工学研究科2年)

【硬式野球部】

- 6月27日～29日 第22回中国地区大学野球新人戦 準優勝
- 9月6日～10月20日 平成20年度中国六大学野球秋季リーグ戦 第3位
- ベストナイン 外野手部門 稲沢 航平(経済2年)

【サッカー部】

- 8月22日～24日 全日本大学フットサル大会2008 準優勝
- 6月23日～8月26日 2007年度全広島サッカー選手権決勝大会 優勝
- 9月14日 第88回天皇杯全日本サッカー選手権大会 出場
- 9月28日～10月1日 第63回国民体育大会(おおい国体)出場 戸田 進(経済4年) 岡本 彰泰(経済3年)
- 4月12日～11月9日 2008年度中国大学サッカーリーグ(1部)第3位

【剣道部】

- 8月31日 第55回中国四国学生剣道優勝大会 出場

【柔道部】

- 8月29日～31日 平成20年度中国四国学生柔道体重別選手権大会 出場

【ソフトテニス部】

- 8月7日～10日 第62回文部科学大臣杯全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会出場
- 10月9日～12日 平成20年度中国・四国学生ソフトテニス選手権大会 出場

【男子バレーボール部】

- 10月4日～5日 平成20年度バレーボール戦秋季大会
- チャレンジリーグ 第2位

【軟式野球部】

- 10月27日～31日 平成20年度西日本地区学生軟式野球秋季1部リーグ戦 第6位
- ベストナイン 三塁手部門 水戸川 恭平(経済2年)

【バドミントン部】

- 8月6日～10日 第33回中国学生バドミントン選手権大会 出場

【卓球部】

- 8月28日～30日 第59回中国学生卓球選手権秋季大会
- 2部 第6位

【ゴルフ部】

- 11月6日～7日 第29回中国四国学生ゴルフ新人戦 出場

【水泳部】

- 9月13日～15日 第63回国民体育大会(おおい国体)出場 藤井 誠也(建築・建設1年)

【ボート部】

- 9月30日～10月6日 第63回国民体育大会(おおい国体)出場 小林 秀彰(経済3年) 北条 正人(海洋2年)
- 10月17日～19日 第52回中国学生ボート選手権大会 優勝

【弓道部】

- 10月8日～11日
- 第53回中国四国学生弓道選手権大会出場

【吹奏楽部】

- 11月23日 第30回定期演奏会(大学会館)

【ボウリング部】

- 8月6日～7日
- 平成20年度中国四国学生ボウリング選手権大会 2人チーム戦 優勝 5人チーム戦 優勝 個人総合マスターズ戦 第2位 大下 純矢(経済2年)
- 8月20日～22日
- 第41回西日本学生ボウリング選手権大会 第6位 個人 第2位 大下 純矢(経済2年)
- 9月29日～10月3日 第63回国民体育大会(おおい国体)出場
- 大下 純矢(人間文化4年)
- 大下 純矢(経済2年)

【三蔵太鼓を打つ会】

- 11月14日
- びんご産業市場オープニングセレモニー

【剣道同好会】

- 10月23日～26日
- 第42回全国学生剣道優勝大会 優勝 大本 雄介(情報3年)

【学友会執行部】

- 11月26 秋の献血キャンペーン

国際交流瓦版

- ◎地域の厚地正人さんからの招待で石月さん(国際経済 3年 中国)ら10名が日本舞踊第19回むらさき会を鑑賞 (6月29日)
- ◎福山市立引野小学校の1年～2年生を対象にMingchua Tatsaneeさん、国際理解の講師(メディア情報文化 4年 タイ) (7月2日)
- ◎ひろしま国際センター奨学生授与式・交流会へ島都格奇さん(人間文化 2年 中国)ら10名の全奨学生と共に島敏夫留学生センター副センター長が出席 (7月19日)
- ◎第15回ゲタリンピック運営委員会国際交流部会主催の第2回・4ヶ国対抗親善サッカー大会が本学サッカーグラウンドで開催。留学生会会長李丹丹さん(国際経済 3年中国)を中心に朴聖雨さん(国際経済 1年 韓国)ら17名のチームが勝利。ペルーチーム 対 本学留学生チーム 1:2 中国チーム 対 本学留学生チーム 0:1 (7月13日)
- ◎経済産業省・文部科学省によるアジア人財資金構想プロジェクト2期生孫瑞さん(国際経済 3年 中国)ら7名が福山地区で初の開校式に出席 (7月19日)
- ◎ふくやま市民交流館において第4回異文化交流外国人日本語よみかたりコンクールが開催され、阮苑さん(国際経済3年 中国)の「九月九日山東の兄弟を憶う」が優秀賞、劉瑾さん(環境情報 3年 中国)の「東郭先生と狼」が審査員特別賞を受賞。受賞した二人は中国・四国大会第2回同コンクールの出場権を獲得。 (7月20日)



- ◎平成18年から本学と教育に関する交流協定書を結んでいる中国北京市の中高一貫校 海淀実験中学から劉二慧副校長ほか教員5名と、中学2、3年生と高校1年生18名の一行が来学。宮地理事長・総長、牟田学長、吉原副学長へ表敬訪問。学内見学には今年度入学生の同中学出身の陶雨さんら(機械システム工学 1年 中国)3名も同行し、案内、通訳をサポート。一行は工学部構造材料開発研究センター、経済学部パソコン室、人間文化学部メディア製作実習室、バーチャルスタジオなどを見学。
- ◎ニューヨークオールバニー薬科大学から教員1名、学生2名が薬学部を訪問 (7月24日)
- ◎本学協定校、中国北京・対外経済貿易大学(UIBE)へ夏期集中中国語研修のため、岡田和也さん(経済 2年)ら10名が短期留学。本学から研修生全員に奨学金授与。富士彰夫教授ならびに大久保勲教授が引率。 (8月1日～8月24日)
- ◎本学協定校、米国・カリフォルニア大学リバーサイド校(UCR)へ夏期集中英語研修のため、7名が短期留学。魚本瞳さん(薬学 2年)ら3名は、米国・UCRから短期留学奨学金を授与。さらに研修生

- 全員に本学からも奨学金を授与。井ノ内直良教授が引率。 (8月1日～9月2日)
- ◎UIBEから客員教員として趙旭梅准教授が着任 (9月1日)
- ◎広島市留学生会館で開催された広島地域留学生のための進学説明会へ大久保勲留学生センター長と共に徐心妍さん(国際経済 2年 中国)が参加。 (9月2日)
- ◎UCRからの留学生12名を対象に本学での第3回日本文化研修を開講。陶芸、茶道、和服着付け、能楽、座禅など日本の伝統文化を体験。はきものの博物館、宮島、平和記念公園、後楽園などを訪問、天野実業の里庄工場見学、初級日本語の学修など多彩なプログラム。本学の学生も留学生を含め、ランゲージ・パートナーとして留学生を支援。福山松永ライオンズクラブによる讃岐うどん作りへの招待、福山大学留学生教育振興協会や本学卒業生によるホームステイ、福山ソロブミストなど地域の方々の協力に感謝。 (9月7日～9月17日)
- ◎高峰さん(国際経済3年 中国)ら7名の留学生が地元企業へインターシップに初参加(国際経済5名、建設環境工学1名、機械システム工学1名) (9月8日～9月12日)
- ◎日本学生支援機構 短期留学推進制度による留学の2人目として、陶山太一さん(国際経済 3年)がUCRへ半年留学。本学からも奨学金を授与。
- ◎中国・UIBEへの交換留学生として藤田亮輔さん(国際経済 2年)が一年間留学。本学からも奨学金を授与。
- ◎UCRへ半年留学中のPraew Bookpitakakwongさん(メディア情報文化 4年 タイ)、さらに半年留学延長。 (9月16日)
- ◎銀河学院高等学校2年生の中国上海市への研修旅行のため、銀河学院高等学校2年生に譚云蕾さん(国際経済 2年 中国)ら4名が事前学習指導 (9月20日)
- ◎広島キワニスクラブ主催の第22回キワニス留学生奨学金・日本語作文に「優秀賞」干秀英さん(国際経済 3年 中国)「美しい日本を守ろう」、「佳作賞」王媛さん(国際経済 3年 中国)、曹東林さん(国際経済3年 中国)が受賞し、表彰式に出席。 (9月25日)
- ◎アジア人財資金構想プロジェクト就職活動体験報告会で一期生の秦永恒さん(機械システム工学 4年 中国)ならびに呉麗麗さん(国際経済平成19年度卒業生 石井表記勤務 中国)が発表。報告会では留学生等、企業関係者を含め40名が参加。 (9月30日)



- ◎松永ロータリークラブによるオーストラリアからのGSE(研究グループ交換)によりJill Gatesさんら2名が本学バーチャルスタジオやグリーンサイエンス研究センターを見学。 (10月7日)
- ◎UCRより国際教育プログラムのディレクター Ms. Bronwyn Jenkins-Deas女史が来学。UCRにおける多角的な国際教育活動が紹介された (10月8日)
- ◎岡山県中小企業団体中央会主催の留学生と地元企業との就職面接会へ本学留学生21名(経済16名、人間文化4名、工学1名)が参加 (10月16日)
- ◎第6回広島県東部高校生英語スピーチコンテストを開催。5校11名が参加し、大賞は河野冬実さん(広島県立福山誠之館高等学校 2年)のAirplane Dreams。副賞としてUCRへの一ヶ月の短期留学奨学金を授与。本田智子さん(心理 2年)と田中良さん(国際経済 2年)が司会。 (10月18日)
- ◎第34回三蔵祭で福山大学留学生会会長 李丹丹さん(国際経済 3年 中国)ら、模擬店を出店。昨年に引き続き、羊肉串焼きを販売し、好評。 (10月18日～10月19日)
- ◎第15回スピーチコンテストを開催。日本語の部では7名の留学生が発表。阮苑さん(国際経済 3年 中国)の「最高の夏の思い出」が最優秀賞、英語の部では9名の学生が発表し、浦崎朋加さん(薬学 1年)のEating habits and the problemが最優秀賞を受賞。 (10月19日)
- ◎夏期集中中国語研修了証書授与式を開催。宮地総長が語学研修生(UCR 6名、UIBE 10名)に修了証書を授与。研修生との懇談会も開催。 (10月20日)
- ◎留学生センターにおいて入学して1年以内の外国人留学生10名を対象として日本人学生チューター郷原由馨さん(経済学研究科1年)ら10名による日本語能力向上のための指導を開始 (10月21日)
- ◎協定校である中国・中山大学と学術・教育交流(学生交流)に関する協定実施細則を締結(10月29日)
- ◎日本学生支援機構の私費外国人留学生学習奨励費給付制度追加受給者として王琦さん(国際経済 3年 中国)ら4名が採用決定。本学当該奨学金受給者は22名。 (11月4日)
- ◎本学と中国・西安培華学院は学術教育交流協定を締結 (11月5日)
- ◎福山市立大谷台小学校において6年生の公開教育研究会の国際理解教育公開授業にMingchua Tatsaneeさん、国際理解の講師(メディア情報文化 4年 タイ) (11月5日)
- ◎本学と中国・湖南大学は学術教育交流協定を締結 (11月7日)
- ◎熊平文化財団奨学生の朱雪鳳さん(情報処理工学 4年 中国)ら3名と尾田温俊准教授は当財団交流会へ出席(11月11日)

学務部 国際交流課

高大連携校で中国上海研修旅行事前指導

平成20年9月20日(土)10:00～12:00、銀河学院高等学校において、留学生センターの趙建紅講師の指導のもと、経済学部国際経済学科3年生の中国人留学生が、上海研修旅行に参加する高校生に事前指導を行いました。参加したのは譚雲蕾(タンウンライ)、李岩昊(リガンコウ)、徐心妍(ジョシンケン)、阮苑(ゲンエン)の4名。10月8日～10月11日の3泊4日の上海研修旅行に参加する銀河学院高等学校の2年生を対象に、上海実験学校において、両校の高校生が交流するための「自己紹介文」の作成を中心に、2時間にわた



男子留学生による日本語指導

り少人数グループに分かれて中国語の指導をしました。

銀河学院中学・高等学校ではちょうど文化祭を開催中で、留学生も茶道に挑戦するなど、日本文化にもふれることができ、高校生とともに楽しいひと時をすごしました。

留学生センター



茶道にも挑戦しました

教育懇談会終わる

夏季休業期間中、開学以来、継続して開催している教育懇談会。保証人の方にお願したアンケート結果を基に改善を加え、今年は8月23日(土)～9月7日(日)の中9日間、名古屋～福岡の12の会場で行われました。

昨年好評を博した土日開催、学科教員、担任との懇談。とりわけ地方会場へ当該学科の教員がいない場合は「担任のコメント」での対応等。勿論今年も実施しました。

ご両親で出席された場合も1名と数えまして出席総数は1,065名。出席率は昨年とほぼ同率ですが当日の欠席率は減りました。改善の後がうかがえるのではないかと思います。当日の昼食も保証人の方と同じテーブルで肩を並べてとりました。

また本学会場では後援会総会、学長講演の後、開学以来初めて学部別全体説明会をもちました。今まで味わうことができなかった『先生の顔の見える』全体会。『よかった』というありがたい声を聞くことができました。個別懇談会場も各学部学科の建物で行いました。待ち時間を利用してご子

校51名でした。

◆進学相談会(業者主催)

業者主催の進学相談会において、本年度は広島など24都市45会場で開催され、高校生・保護者・教員、総計612名の進学相談に応じました。

◆福山大学見学会・体験入学会

毎年恒例の見学会を7月19日、9月13日、体験入学会を8月3日、8月30日に開催しました。

見学会の参加者は7月19日は高校生99名、保護者34名、計133名、9月13日は高校生60名、保護者26名、計86名でした。体験入学会の参加者は、8月3日は高校生509名、保護者178名、計687名、8月

12会場で1,065名の出席

女の勉学に励まれる学科内の施設設備の見学もしていただくこともできました。教員も大学もより身近に感じていただくことができたのではないかと思います。毎年希望の多い就職相談も事前に希望をとり対応しました。

更に一人でも多くの保証人の方に出席していただけるよう努力していきたいと思っています。

学務部 教務課

入試広報室から

◆入試説明会

高校進路指導担当者を対象に、福山大学および福山平成大学の入試説明会を6月16日から20日まで、各地の12会場で開催しました。

高校からの参加者は、145校157名でした。

◆大学参観を兼ねた入試説明会

9月19日、福山大学および福山平成大学の大学参観を兼ねた入試説明会を合同開催しました。参加教員の事前希望であった両大学の施設・設備の見学後、福山市内のホテルで両大学の入試説明、質疑応答が行われました。参加者は10府県の41

30日は高校生216名、保護者68名、計284名でした。

福山平成大学では、7月5日、9月13日に見学会、7月27日、8月30日に体験入学会を開催しました。見学会の参加者は7月5日は高校生62名、保護者18名、計80名、9月13日は高校生64名、保護者18名、計82名でした。

体験入学会の参加者は、7月27日は高校生191名、保護者43名、計234名、8月30日は高校生102名、保護者32名、計134名でした。

◆高校PTA・教員・生徒の本学訪問

4月下旬から福山大学および福山平成大学への訪問は、高校16校820名でした。

2008年度公開講座終わる

福山大学と三原市中央公民館の2会場で、9月から11月にかけて、「安心・安全な暮らし3>」という統一テーマのもとに、福山大学公開講座を次の通り実施しました。

第1話(特別講座)「宇宙の中の人類」牟田泰三学長

第2話「外貨預金の危険性」

経済学部 准教授 尾田温俊

第3話「ギリシア・ローマ時代における高齢者像」

人間文化学部 教授 丹藤浩二

第4話「自然災害の話—自分の命を守るために—」

工学部 教授 千葉利晃

第5話「健康食品は安全と言い切れるか？」

生命工学部 教授 渡邊 誠

第6話「生活習慣病から介護へ」

薬学部 教授 古野浩二

閉講式において、6回中5回以上の出席者に、修了証書を授与しました。

それぞれの会場の申込者数、受講者数、修了者数は次の通りです。

会場	申込者	受講者	修了者
福山	197	187	101
三原	87	75	53

申込者の構成は、年齢では60歳以上、職業では主婦や無職の方が大部分を占めています。

受講者へのアンケートによれば「よくわかった」「わかった」を合わせれば両会場とも約80%を占め概ね好評であったと言えます。来年度開講を希望する分野としては、両会場とも「健康と薬」「政治と経済」が多く、「福祉・生涯教育」「文化芸術」がこれに次いでいます。この結果を来年度講座に反映させたいと思います。

最後に講演いただいた諸先生と支援いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

公開講座委員長 井上 矩之

後援会情報

福山大学後援会役員会(理事会)開催される!

三蔵祭(大学祭)期間中の10月18日(土)の11時から福山大学後援会役員会(理事会)が19号館1921教室で開催されました。

多木後援会長、牟田学長の挨拶に続いて会長・

副会長・監事・理事が自己紹介を行い、その後、8月下旬から9月上旬に全国12会場で開催された後援会地区別総会の報告がありました。

総務部 庶務課



挨拶する多木後援会長



役員会の様子

学内人事

【教員】

◎死亡

名誉教授 下村 健次
(6月27日)

◎退職

生命工学部 助手 鈴木 久 英
(8月31日付)
一般教育課程 講師 Carol L. Fujii
(9月15日付)

◎学長特任補佐(教育研究担当)

嶋田 拓
(8月1日付)

◎客員教員(准教授待遇)

趙 旭 梅(経済学部)
(9月1日付)

【職員】

◎死亡

総務部付 江里口 武 和
(10月18日)

◎配置換

総務部付(文書課長) 江里口 武 和
(10月1日付)

就職課参事 (総務部参事
(福山大学孔子学院担当))

五島 健 至
(10月20日付)

◎兼務

社会連携研究推進センター事務室長
(法人事務局部長(福山平成大学担当))

後藤 哲 男
法人事務局部長(福山大学孔子学院担当)
(法人事務局部長(福山平成大学担当))

後藤 哲 男

文書課長
(庶務課長) 松岡 哲 衛
(以上10月1日付)

◎免兼務

法人事務局総務部(総務担当)
(文書課長) 江里口 武 和
(10月1日付)

追悼

下村 健次 名誉教授

一般教育部の元教授 下村 健次 先生が平成20年6月27日に逝去されました。享年88歳。先生は昭和19年に広島文理科大学物理学科をご卒業の後、愛媛青年師範学校助教授、広島県立医科大学講師、広島大学助手、助教授、教授を歴任されました。昭和60年に定年退職後、4月に福山大学教養部教授に就任されました。本学では、平成4年から1年間一般教育部部長の要職を歴任され、平成8年3月に退職。福山大学名誉教授となられました。

先生は、物理学や物理学実験に関する著書や、後輩の指導に全力を傾けておられました。その功績により、平成9年に勲三等旭日中綬章を受章されています。

ここに、終始本学の発展に大きく寄与されました労をねぎらい感謝すると共に、ご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

このたびは、教育改革の断行、学生の種々の活躍(県知事表彰・国体参加・サッカー部天皇杯出場等)あるいは社会連携研究推進センター開設など、福山大学の生き生きした活動が集約的に紙面に表れ、力強い仕上がりとなりました。これを継続していきたいと思っています。

発行 福山大学
編集 福山大学広報委員会
〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
TEL (084) 936-2111 FAX (084) 936-2213

<http://www.fukuyama-u.ac.jp>